



安心とつるおの「下町」の手をめぐりて

防災 まちづくり 瓦版

発行ノ寺言問を防災のまちにする会

平成7年9月1日

工事説明会



開かれる

一言会の高田製薬跡地利用の計画も、実施の段階にはいりました。

7月7日には、墨田区の地域整備課と施設計画課によって、また、8月10日には工事を実施する施工業者によって、近隣にお住まいの方を対象にした説明会が開かれました。

区の実施した説明会では、一言会が2回の住民説明会を経てまとめた計画内容の確認と、工事概要の説明が行われました。参加された近隣の方からは、工事に関する質問のほかに、完成後の利用者のマナーに対する不安の声が聞かれました。施工業者による説明会では、工事工程等の説明が行われました。この場では、4tトラックが狭い道路を資材等の搬入搬出路として利用することから、他車両の交通の妨げになることも予想されるため、ガードマン等の誘導員を配置してほしいとの意見がだされました。

工事工程表 (工期 平成7年7月31日~平成8年3月29日)

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
準備 工事	—							
仮設 工事		—						
基礎 工事		—						
躯体 工事			—					
屋根 工事				—				
防水 工事				—				
サッシ工事				—				
金物 工事				—				
外装 工事					—			
内装 工事					—			
その他						—		
外構 工事							—	



待たれる完成

工事着工。この一寺言問地区のみんなの建物がすこしずつ姿をあらわしはじめる。

下町を舞台にした まちづくりのドキュメンタリー映画 完成

瓦版 No.34で紹介した向島とオッテンゼン(ドイツ)という2つの下町を舞台にしたドキュメンタリー映画ができあがりました。1年がかりで撮影の行われたこの映画の題名は、『ふれあうまち 一向島・オッテンゼン物語』。近く曳舟文化センターでの上映も予定されているそうです。

監督の熊谷さんから向島のみなさんへひとこと。

「お世話になりました。」

とにかく見てね。」



~上映会~

10月26日 午後7時より
曳舟文化センターにて

向島出身のエッセイスト枝川公一さんと、監督の熊谷博子さんのトークもあるそう。

□工事車両について

工事車両は、2t車及び4t車を使用。搬入搬出路は、水戸街道からのびる一寺小の東を通る道路を利用し、高田製薬跡地までを往復。

□作業時間について

日曜・祭日は原則として作業は行わない。作業時間は、通学時間を除く午前8時から日没まで。

私がまちづくりスタッフです

その34
向島五丁目
山本賢太郎さん
(一言会 副会長)



向島五丁目東町会の町会長になられた山本さんは、昭和5年生れ、出身は秋田県男鹿市。六人兄弟の長男で、中学に入るため秋田市に出で下宿、明治大学に入り上京する。

当時は、現在のように豊かな時代ではなかったので、子供の頃からよく働いた。小学校三年生の時には、水汲みのアルバイトをした。大学時代はありとあらゆる仕事をして学資を稼いだ。そういう学生を応援する暖かい雰囲気、世の中にあった。家庭教師が忙しくなり、卒業後、両国で学習塾を開く。故、五井省吾都議の経営する塾の講師に招かれたのが縁となり、久子さんと結婚して、向島の住人となる。

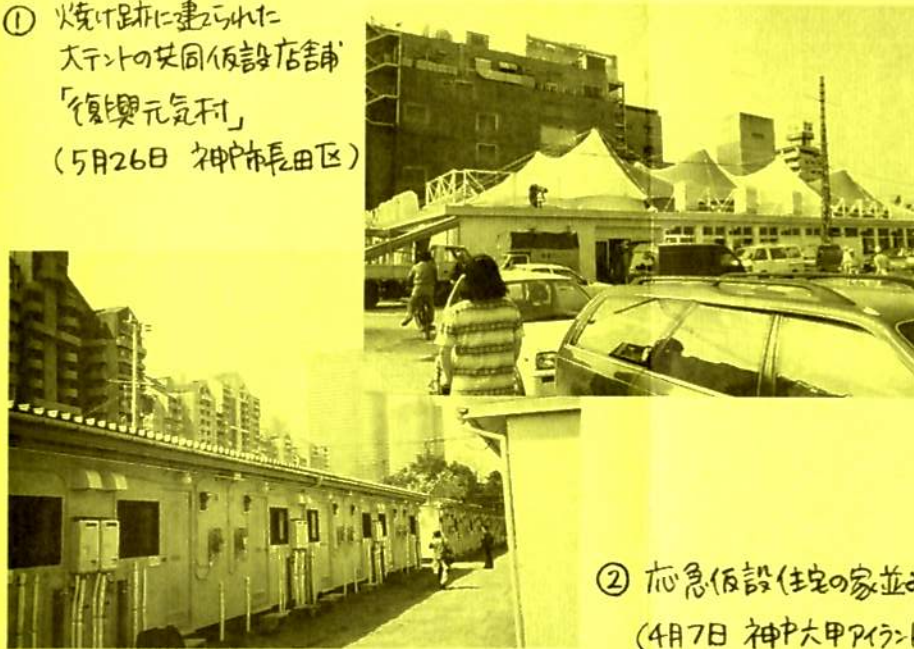
一言会の副会長になって「住民主体のまちづくりのむずかしさを考えた時、十年にわたる一言会の活動は評価されるものがある。これからも、自由闊達な発想、ものづくりへのこだわりを大切にしながら、まちづくりを進めてゆきたい。」と考えている。

地元では「賢太郎さん」と呼ばれ、顔や髪の色つやもよく大変若々しい。都議で4歳といえ、まだ中堅のイメージだが、家に帰ると、マスコミのモデルになって、路地裏の手押しポンプを押す剛輝君のやさしいおじいちゃんになる。

被災地では時間の経過とともに、応急仮設住宅や復興まちづくりの問題など、新たな問題が浮上してきています。4月中旬頃までの3ヶ月近くも長い間、水道やガスが復旧しなかった所もありました。現在でも一万余千人の人々が、公園などで避難生活を送っているといわれています。応急仮設住宅での高齢者の孤独死や疲れ果てた被災者の自殺なども頻発し、最新の集計によると震災関連の犠牲者は六千人を越えたと言われています。復興まちづくりについても、住民の意向をまとめるための協議は始められたばかりです。再び元の場所に家を建てて、自分のまちに帰れるようになるまでは数年間かかるようです。

しかしそんな状況の中で、多くの人は「被災地の人は元気だ」といいます。「多くをなくしたことで、何が大切なか、何のために生きているのかを知って、一段と強くなつたのではないでしょう」と言っている人もいます。被災地の人々は、苦しい被災生活の中で「住民自らが自分たちの手で新たなより良いまちをつくらう」と、今後のまちの復興を夢見てたくましく頑張っているのです。

① 焼け跡に建てられた大テントの共同仮設店舗「復興元気村」
(5月26日 神戸市長田区)



② 応急仮設住宅の家並み
(4月7日 神戸大甲アイランド)

私たちも「阪神・淡路大震災」を他人事として忘れてしまわずに、これからも震災から教訓を学び、自ら家庭やまちの防災について、真剣に考えていかなければならないと思います。そして、被災地の人々の復興に向けた情熱を見習って、災害に強いまちづくりに向けて、より一層積極的に取り組んでいかなければならないと思います。



③ 跡地に建物の基礎壁が残る焼け跡の跡地
新しいまちがつけられる日を行っている
(5月15日 神戸市長田区)



「よみがえれ!! 神戸」
一日も早い復興を目指し
おはしゃぎ始める
(5月15日 神戸三宮センター街)

「阪神・淡路大震災」のその後

今僕が11月17日に発生した「阪神・淡路大震災」から、半年以上が経過しました。「もう過去のこと」「関西で起きた遠くの話」として、忘れてかけてはいませんか? その後「地下鉄サリン事件」が発生したため、東京の新聞やテレビでは「阪神・淡路大震災」をとりあげる機会がめっきり少なくなっていました。が、「阪神・淡路大震災」は今も続いています。



神戸の中心街・三宮では
被災したビルが次々と撤去されいく(5月26日)

忘れない・忘れられない・忘れてはいけない

いちごことい
一言問/防災まちづくり瓦版
第37号 平成7年9月1日発行
編集/一言問を防災のまちにする会・編集局
高原純子・若木菊枝・植竹モト
阿部洋一・明間 藤・中村淑子
編集協力/マヌ都市建築研究所
発行/一言問を防災のまちにする会・事務局
墨田区まちづくり事業推進部地域整備課内
〒130 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel.(5608)6261

報告～向島有季園から～



6月10日 剪定会

雨の日の多かった今年の6月。でも、向島有季園の利用者のみなさんによる剪定会の日は、気持ちのいい晴天でした。有季園の利用者のみなさんは、2時に集合してさっそく元気よくのびている木々をお行儀のよい形に剪定していきます。毎年参加してくださる武田先生は、後ろからアドバンスをしてくださいました。青の高い豆桜の剪定は一苦勞ですが、二人がかりではさみをいれ、形を整えました。



お知らせです。向島有季園の豆桜の剪定は、区の緑化係で、年に一度行ってくださることになりました。

今年も豊作

8月のあめロ、暑さにもめげず園の手入れに精を出す利用者数人の皆さんに、自慢の作物、ご苦労話など、お伺いしました。

● 森 富子さん (おんりの地ほ)



「娘と孫二人とで、仲良し園芸よ。一家庭だんらんの畑なの。去年は、かぶ・きゅうり・春菊がよくできたの。親戚から肥やしに牛ふんをもろって撒いたの。今年はず・どじょういんげんに挑戦中。枝豆は失敗しちゃった。でんでん虫に葉物が食べられて、くやしいわ」

● 中村 ゆき子さん (こじゆけい)



「うちも、孫たちとの家族園芸なの。去年はミニトマト、今年は普通のトマトがたくさん採れて家族で食べるのに間に合うつくりい。隅田川花火の時に食べようと植えた枝豆が失敗して、残念だわ。今、ホジソを作ってるんだけど、ちよっと虫が心配なの」

● 敷波 静恵さん (かもめ)



「去年の大湯水の時も、有季園はずっと水枯れ知らずよ。ネコよけのペットボトルはあんまり効果がなかったみたい。あら、こんなにミョウガができてうれしいわ。これがアシタバ。ナスも色が良くて、漬物にしたら好評だったのよ。夏場は、週1回は雑草取りが必要で、ちよっと大変」

● 金山浜三郎さん (つばめ)



「去年採れたオオバを焼酎漬けにして飲んでるよ。健康に良いみたい。ナスは自宅で苗を育ててから、園に植えたんだ。こないだ採れたたった一本のきゅうりはうまかったなあ。これ、今年採れたジャガイモ。虫よけとか、肥やしとが工夫して、今じゃ、有季園が私の一番の楽しみなんですわ」

● 牧野 泰幸さん (めじろ)



「ふるさとの鹿見島の味・レイシ(ニガフリ)ができてうれしいです。オオバシソ)は大豊作でした。ニガフリは、この春『花と緑の学習園』で苗を配ってくれたんです。去年11月にハツカダイコンを植えて三月に採り入れました。冬越し園芸に成功してうれしかったです」
※有季園は今初めて、冬越しの二年間利用を実施しました。



① 親松エミ(向島5-49-4)

おばあちゃんのやりの首飾がらの馬車屋エミ。懐かしい菓子が並ぶ。

昔、一寺言問のまちには間口が一問八らの駄菓子屋さんがあって、飴玉やおせんべい、当たり前、ピー玉ののびのびなど、子供の好きそうなものが、たくさん並べてありました。夏場にはかき氷、冬場にはおでんやもんじゃと、季節ごとに商品もかわり、子供たちにとってはおばあさんや友達と心を通わす場所、サロンでもありました。



③ 天心堂(東向島1-18-2)

女房貝店にが馬車やおはけおもちゃ置いている。おはけつりかけの棚にいろいろおものが並ぶ。

まちがど 版 ニュース



①ぼんでん祭

5月5日、五穀豊穰と川の氾濫防止を祈願する白髭神社の「ぼんでん祭」が行われました。船でこの行事を行うのは10年ぶりのことだそうです。



②両国から船(子供会)

8月2日、東向一南町会の青少年部と子供会で夏休みレクリエーションを行い、水上バスを借り切って隅田川を下り、葛西臨海公園の水族園を見学しました。



③地蔵坂の縁日

東向島三丁目にある「子育地蔵」は毎月四の日が縁日。ゲーム大会が子供たちに人気があり、童心に返った大人たちも参加して楽しそうな歓声が夜空に響きます。



④「リバーサイド隅田」の制振装置

白髭橋の袂の超高層ビル「リバーサイド隅田」には、風によるビルの揺れを防ぐ制振装置が設置されています。地震時も震度4程度ならばほとんど揺れないそうです。

⑤こんな音頭、知ってますか

東向島宮元町会にはこんな盆踊りの歌があります。

『宮元防災音頭』
♪ ハアー いつか 来る 来る
天災 地変
あわてさわがめ心意気
宮元よいとこ みんなの町よ
負けちゃならない (ハ ソレ)
負けちゃならない よい よい よい
「どん どん どんとこい ノ
ジャン ジャン ジャン」
(すみだ音頭替歌)



② 松尾屋(東向島1-18-4)

大正時代に開店した文房具店。駄菓子も置いてる。昔は小学校に通子だったの顧問の心売だった。

今でも一寺言問のまちには、学校、保育園、銭湯の近くなどに駄菓子屋さんがあります。昔のように駄菓子だけ置く店は少なくなりましたが、店先には子供たちの元気な声がひびき、うれしそうなお顔が見受けられます。塾やお稽古帰りの子供たちの息抜きの場所、現代っ子の心のオアシスにもなっている駄菓子屋さん取材しました。



一寺言問の
駄菓子屋
探訪記



⑤ 又米たばこ店(東向島3-15-6)

駄菓子も置いてるたばこ屋さん。昔は保育園から帰る途中のみ田川に運ばれた園児たちがみかんの店だった。



④ みはし屋(向島5-45-8)

駄菓子も売ってるラーメン屋さん。昔は手製のアイスキャンディー売り場。キャンディー屋の名前で親しまれた。